

相良ホーム長の ご利用者ファースト

本人のお家になって欲しい！



ホームに新たに入居したご利用者さんは、「今日だけここに来ていて明日は帰る」と考えている事が多く、実際に帰ろうとしたりします。そんな時、私達のホームでは、基本的には嘘はつかない様にしています。

「明日は帰るんでしょ？」と聞かれたら、「ここは娘さんが借りてくれたAさんのお家だから、いつまでも居ても良いんですよ」という様な姿勢で対応します。

認知症の方は喪失体験が多く、家での「役割り」や生活習慣を失ってホームに入居してきます。もし実際に家に帰ったとしても誰も居ないし、そこにかつての「役割り」はありません。そこでホームでは、庭掃除や洗濯などその方が長年行ってきた生活習慣をやり続けられるようにします。そうすることで「役割り」ができてホームがその人の居場所になっていきます。



以前こんな事例がありました。利用者Bさんは、旦那様が亡くなり独りでの生活ができなくなってホームに入居しました。旦那様に先立たれたショックが大きかったからか、旦那様が亡くなった事を忘れてしまっていました。ホームでは役割りづくりの支援を行い、元々専業主婦だったBさんは毎日充実しているように見えました。しかし、旦那さんの事が気になりだすと、何も手がつかなくなり歩き回ります。不安そうな表情で職員に何度も旦那様のことを聞きます。もしそこで職員が「旦那様は亡くなっている」と言っても聞きたくないことを突きつけるだけになってしまおうし、本人の立場になって考えると、家族でもない職員から旦那様の死を告げられても信じられないでしょう。そこで、居室に仏壇と位牌を置くことにしました。最初は不安な様子もありましたが、そのうち毎朝位牌に手を合わせるようになりました。ある日、ご本人から「お父ちゃん亡くなっちゃったけど、私も頑張らんなくちゃいけないね」という言葉が出ました。少しずつ旦那様の事で不安になることはなくなっていき、毎日の家事に精を出されるようになりました。

これらの経験を振り返ると、本人が一番不安なのは「わからないこと」なのだと思えます。嘘や適当な誤魔化しは、「わからないこと」を増幅させるだけです。だから、少しずつでも現実をわかるように関わります。今この場所が、今までの生活習慣が守られていて役割りがある場であれば、本人の新たな「お家」になっていくと信じています。



誕生日外出

担当職員の企画で井の頭公園に行ってきました。素敵なお店でランチをした後、公園を散策して動物園へ。移動も含めて7時間弱の外出。とても元気に楽しめました。ホームに帰ると、娘さんからの誕生日プレゼントが届いていました！



素敵なお誕生日になりました。



地域支援事業

地域支援事業で地域の独居の方の居場所作りをしています！



調理をしたり、入居者さんと交流したり。まるでご近所づきあいですね！

盆踊り

法人内の他施設が企画した盆踊り大会に参加しました！
法人内のグラウンドにやぐらが立ち、盆踊りの音楽が流れはじめると、気持ちウキウキしてきます。やっぱり日本人には欠かせない風物詩ですね。



木もれ陽

東京都目黒区大橋 2-19-1

TEL 03-3466-6600

職員インタビュー

こまばのこの人

● 介護を始めたきっかけは？

2つあります。一つは、甥っ子に先天性脳性麻痺があった事。もう一つは僕自身の事です。

僕は「チーム・バチスタの栄光」等の医療系ドラマが好きで、「臨床工学技士」になることが夢でしたが選者に落ちてしまいました。筆記試験は自信があったので、僕自身の右耳と左目の障害が原因だのではないかと思うようになり、その後半年間引きこもってしまいました。普通の高校生活を送っていた僕には社会の洗礼と受け取ってしまったのです。それを見かねた父が「ヘルパー講習」を勧めてくれました。講義はあまり身が入らなかったのですが（笑）、実習で高齢者の買い物同行に行かせてもらったことで生活の支援をしたいと思い、介護の専門学校に行くことにしたのです。専門学校では、色々な勉強をしましたが、甥っ子の先天性脳性麻痺の事にどうしても意識がいき、脳性麻痺の方が普通に生活する力になりたいと考えるようになりました。

それで、最初の就職は脳性麻痺の方もいる知的障害者のグループホームにしました。そこではご利用者さんは好きな時間まで寝て好きなものを食べていて、喧嘩などもありませんでした。自由で生活されていました。自分も支援員としてそこにこだわっていました。

葛西大樹
(かさいだいき)
令和5年9月入職



その後、高齢者や認知症の方の手助けもしてみたいと思いショートステイや訪問入浴・認知症のグループホームで働きました。まだ当時20代前半だったので、与えられた仕事をひたすらやっていたのですが、今考えてみると高齢者の事業所は管理的な部分が多かったです。特に2年間働いた認知症のグループホームでは、0時まで寝ないと抗精神病薬を飲ませたり、転倒の危険があるという理由で車椅子にさせたり、夜の睡眠のためにおむつにしたりしていました。そのことに疑問を抱き、30歳になった事をきっかけに理想のホームに転職しようと思いました。そんな時にツイッターで「グループホームこまば」を知り、北海道から東京に来る決意をしました。

● こまばに来てどうですか？

楽しいです。自由に生活できるって、それを支援できるってこんなにうれしいんだなって思っています。こまばでは、好きな時間に寝ることも起きることもできるし、ピアノを引いたり、外に出たりと生活習慣を大切にしているとお家みたいです。

● これからやりたいことはありますか？

自分に置き換えて考えると、その日にやりたいことを叶えてあげたいと思っています。その日の天気やその日の気分で外に出ても良いし、買い物しても良い。もちろん寝ても良い。人生はその人のものだから、決められるのではなく自由に生きる手伝いをしていきたいです。



敬老会

堅苦しいものではなく、家庭的なものにしたい！ご家族とご利用者が一緒に準備をして、一緒に食べて飲むというスタイルで行いました。なんとご家族13名参加で、合計27名の会になりました。



お米を研ぐところから始め、煮つけ、きゅうりの酢の物、干瓢など太巻きのお具もみんなで作りました！

買い出しには、ご家族の男性陣に行ってもらい、まるで親戚の集まりのよう。まずは、皆さんこの日を健康で迎えることが出来て嬉しく思います！



敬老会がご利用者さんご家族や、ご家族同士の交流の場になってよかったと思います。



ご利用者さんとのお別れ

入居されることもあれば退去されることもあります。今回約6年間共に生活した方が退去することになりました。生活歴である家庭菜園を始めたり、料理を職員に教えてくれたり…とホームに沢山の事をもらってくれました。ありがとうございました。最後はみんなでお見送りしてお別れです。どうぞお元気で！

